

## 谷議員、宮川議員が聞く 7月豪雨災害を 検証する

表紙写真／話をお聞きした皆さん

平成30年7月に発生した豪雨災害により、土砂災害や浸水害で多くの方が被災されました。

各地域の災害対応がどのような状況であったのか、住民自治協議会、自治組織の方々にお話を伺いました。

### プロフィール



志和堀小学校区住民自治協議会  
会長 平賀 興三郎さん



中黒瀬住民自治協議会  
会長 岡田 博陽さん



自治組織「you 愛 sun こうち」  
総務企画部長 兼田 昭宏さん



三津地区自治会  
会長 鹿島 富士雄さん

# ボランティア、地域の力で 土砂、土のう、災害ごみを撤去しました

Q 行政機関の災害対応について気付かれた課題を教えてください。

平賀会長 志和堀地区では土石流に対応していないという理由で、すでに避難していた地域センターから生涯学習センターへ誘

導するように行政から指示がありました。夜中に浸水被害の出ている危険箇所を通過させての移動はやめてほしいと思います。兼田部長 本庁と支所との意思疎通が出来ていなかったと感じました。また、市は自治組織に

どういったスタンスで対応しているのか明確にして、どんな連絡が入るかなどを、分かりやすくしてくれば、もっとスムーズに対応ができたと思います。その他、防災ラジオは河内町で約7割普及していますが、肝

心な放送が入らず、「使えもせんもんを二千円で買わされた。」という意識が強く、情報伝達手段は課題が多いです。

鹿島会長 避難所運営は社会福祉協議会が不眠不休で頑張ってくれてスムーズにきました。問題は大量の土石流が三津大川など河川に流れ込み、川全体の川底が2メートル以上高くなっているということです。町民は、少しの雨でも浸水する不安に襲



②



①



③

- ① インタビュー風景
- ② 志和生涯学習センター
- ③ 東広島市緊急告知ラジオ
- ④ 安芸津町の災害ごみ
- ⑤ 河内町での土砂撤去作業



④



⑤

われており、早い復旧をお願いしたいと思います。

**Q 地域やボランティアなどの災害対応状況はどうであったか教えてください。**

**兼田部長** 自治会役員が事務局に集まり、情報収集や警戒パトロール、避難所運営などの対応に追われました。メイン道路が通行できなくなっていたため、近隣住民の方々が土砂の撤去をほとんど人力で行い、丸一日かかって通れるようにしました。また、孤立集落解消のために、昔の林道を住民で開通させ、皆さん総出で物資を運ぶことで対応しました。その他に、情報伝達については自治会で持っているメールを活用しました。

**鹿島会長** 三津地区は、町の中心約400世帯がほぼ床上浸水し、町中が泥に埋まりました。ライオンズクラブや商工会等ボランティアの方々が連携して、道路にあふれた土のうや災害ごみを撤去しました。作業を2度にわたって行ったことで、町中に4

〜5,000あった土のうが一気に片付きました。また、自治会や女性会がボランティアのために約200食の炊き出しを行いました。そのお陰で、三津の町なかは、車が通れるようになりました。

**岡田会長** 災害ボランティアの対応は社会福祉協議会が中心となって、非常に良かったと思います。家回りの土砂撤去を主に行っていただきました。東北、関東、九州方面からも来て作業に携わっていただき、本当に感謝しています。

**Q 最後に一言お願いします。**

**平賀会長** 道路、河川の予算について、災害復旧優先と聞きますが、当初執行が決まっていた通常業務もできる限りやってもらいたいと思います。

**岡田会長** 移動時の安全を考えると、避難所の開設はもう少し小単位にしてもらいたいです。また、コミュニケーションが大事なので、顔見知りの方がいるところへ行けるようにしていきたいと思います。